

# まちづくりコラボレーション ～さいたまプロジェクト

## PROJECT MEMBER

〈代表者〉 システム理工学部 環境システム学科 教授：中村仁

〈構成員〉 システム理工学部 環境システム学科 教授：作山康

本プロジェクトは、大宮キャンパスがあるさいたま市や近接する上尾市等のまちづくり課題について、地域の様々な主体と連携して、大学内の都市・建築・環境の専門知識やシステム思考による高度な分析や解決策を地元住民や自治体、企業へ提案し、地域の改善に役立てる大学教育・研究を実施するプロジェクトである。

初年度は、さいたま市における連携ニーズ基礎調査、上尾市におけるサテライトラボ開設と地域連携教育・研究の実践を行なう。

さいたま市における連携ニーズ基礎調査は、さいたま市の市民活動団体を対象にアンケート調査を実施して、芝浦工業大学(特に大宮キャンパス)と市民や市民活動団体との連携のニーズやシーズを把握し、分析結果をまとめて学内外に広く周知するとともに、次年度以降の地域連携活動の基礎的な資料とする。

「サテライトラボ上尾」は、原市団地及び周辺地域居住者のコミュニティ活動の拠点として、また、学外教育・研究活動の拠点として、団地内に開設することにより、地域の自治会や行政、事業者等との連携を強化しつつ、高齢者の多い居住者と若い学生がコミュニケーションを重ねながら地域の課題解決に向けた取り組みを実施し、地域コミュニティの活性化を図るプロジェクトである。

## 2013年度 活動の成果

### 教育

大学院、学部の演習科目において、大宮キャンパスに近い上尾市のUR原市団地とその周辺地域を対象とした「環境計画演習」や「土地利用計画演習」、「大学院プランニング演習」を行った。この演習において地域連携をさらに充実させるため、団地内の空き店舗をUR都市機構から通常より安く借り、「サテライトラボ上尾」として学生とともに改修し、住民、事業者、市民活動団体、自治体等との交流の場、成果発表の場などとして活用している。スケルトン貸しの空き店舗の改修において、内装や備品設置、展示に関して、学生が中心に改修したことも建築の現場教育として機能した。

大学院の演習(建設工学演習：プランニング)では、当該地域を対象に、地域の課題を把握して、その課題への対応を都市・地域計画やエリアマネジメントの観点から創造的に提案した。この大学院演習は、演習ではなく地域課題解決の実現、実際の社会貢献につながる実現性の高い提案となるよう教育指導を行っている。

学部の演習のうち、2年生必修科目の「環境計画演習」では、1/500団地模型の製作を行ない、地域住民が3次元で地域情報を把握できるようサテライトラボに展示している。2年生後期の土地利用計画演習では、都市計画

の基礎的な演習として、原市団地周辺地域の現状と課題を調査分析し、その課題に対する計画コンセプトの提案を行った。

以上のような地域との連携を強化した教育に取り組むことにより、これまでよりも詳細で高度なまちづくり教育が実現できている。

## 研究

### 高齢化社会対応まちづくり研究

市内でも高齢化率の高い原市団地でのまちづくり研究は、今後の社会全体での共通課題でもあり、我が国のモデル的解決のヒントとなる可能性がある。対症的なまちづくり改善や運営ではなく、環境や健康、経済活性化等の総合的バランスと予防型まちづくりの展開を図るための研究を行なう。これまで、「高齢者の健康度と歩行者量水準の正の比例」に関する研究を進めてきたが、さらに継続的な研究とともに、歩行水準を高めるためのイベントや空間設計などのまちづくり提案等の研究を進める。

### 空き店舗活用の地域活性化研究

郊外大型店の影響から大規模団地のセンター地区の空洞化により、空き店舗が発生し、団地内の利便性低下や安全機能低下、コミュニティや活性化の低下など、負のスパイラルに陥っている団地において、空き店舗活用や学生や大学施設の新たな役割に関する研究を進める。

### サテライトラボ上尾によるまちづくり拠点の研究

公民学連携のまちづくり拠点であるサテライトラボ上尾の機能は、成長型の教育・研究・交流拠点であり、地元住民、自治体、民間、他教育研究機関と連携して、地域とともに考え運営する持続的なまちづくり拠点として、ラボ自体も研究主体として捉えていく。

## 社会貢献

### 知の公開

大学・大学院での演習では、中間報告として2013年11月に発表会を行い、地元住民や自治体等から意見をいただいたうえで、その後検討修正して、2014年1月に最終報告会でまちづくり提案を行なった。特にサテライトラボの活用提案の中にはすぐ実現できそうなアイデアがあり、地元自治会やUR都市

機構等で実現に向けた動きが見られる。演習の検討結果や、これまでの地域に関わる研究結果は、パネルとして展示し、知の公開を継続させている。また、サテライトラボを紹介するパンフレットを作成し、地域住民、地域の各種団体・組織、事業者などに配布する。

さいたま市における連携ニーズ基礎調査については、市内の市民活動団体を対象として、大学との連携ニーズに関するアンケート調査を2014年2月に実施した。アンケートの結果は概要版としてまとめ、冊子やウェブサイトを通じて、学内、さいたま市、市民活動団体等に公開する。

アンケート調査の概要を一部紹介すると、本調査は、さいたま市市民活動サポートセンターのウェブサイトに住所を公開している269団体を対象に実施し、66団体から回答を得た(回収率24.4%)。66団体のうち、これまで本大学となんらかの関わりのあった団体は7団体(11%)と少ない。しかし、「本学のシステム理工学部(大宮キャンパス)で連携・協力してみたい研究室があるか否か」という質問に関しては、29団体(44%)が「ある」と回答している。各団体が本学との連携に期待していることは多岐にわたり、「情報発信のサポート」「学生との共同作業」「イベントの企画・運営の共同実施」「学生の派遣」「専門的な情報提供・助言」は、どの項目も6割程度の団体が「期待する」または「やや期待する」と回答している。本アンケートの結果は、さらに詳細に分析して、次年度以降の活動に活かしていきたい。

### 知の交流

サテライトラボ上尾では、上尾市、原市団地自治会、社会福祉協議会、UR都市機構、コープみらい等の各専門分野の意見を交換できる発表会やサテライトラボ運営委員会の開催により、継続的なまちづくり提案の実現や新たな実証実験等の提案等の知の交流が機能し始めつつある。

### 知の創出

サテライトラボ上尾では、上尾看護専門学校との共同研究の提案が創出しつつあり、健康相談や介護予防、健康増進のプログラムと環境整備に関する研究が今後進められつつある。

### 芝浦工業大学サテライトラボによる展開

平成26年1月、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）賃貸住宅「原市団地」（埼玉県上尾市）において、UR団地内店舗を活用した「大学」施設としては埼玉で初となる「芝浦工業大学サテライトラボ上尾」を開設した。

#### 公民学連携のまちづくり拠点づくり

UR都市機構が管理する「原市団地」は、昭和41年に入居が始まった住宅団地で、居住者の高齢化の進展を踏まえ、芝浦工業大学（システム理工学部）とURが連携・協力し、平成23年度から健康まちづくりの研究に取り組んできた。そして、これまでの継続的な取組みを背景として、芝浦工業大学が文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されたことを機に、サテライトラボを開設することとした。大学のもつ高度な専門的知識や学生・研究者等による地域課題の抽出分析や高齢者支援の研究、団地とその周辺のまちづくり提案などに取組んでいる。

団地自治会、市、大学、社会福祉協議会、看護専門学校、地元商業者などの公民学連携によりまちづくり拠点の活用を展開していく予定である。

#### 高齢化団地内への学生入居斡旋

大学院プランニング演習での学生分析により、団地内空き家はエレベーターのない4、5階に多く、自治会の広報機能が弱い等から、空き家への積極的な大学生の斡

旋と自治活動への参加、広報活動の手伝いなどの提案が出されたことを受けて、URから大宮キャンパス生協における原市団地等のUR都市機構の団地空き家紹介を本年から積極的に行なうこととなり、大学院の研究成果が実現しようとしている。

#### 新聞各紙で取り上げられ注目

日本経済新聞、建設通信新聞、日刊建設産業新聞等のマスコミにも取り上げられ、団地内大学施設として注目されている。団地での学生入居事例はあるが、大学施設は珍しいこともあり新聞に取り上げられた。



日刊建設産業新聞 2014年1月15日 朝刊◇16面

#### 運営委員会

団地自治会、UR都市機構、上尾市、芝浦工業大学、



コープみらい3周年イベントと連携したパラソルによる休憩場設置



大学・大学院演習成果の発表



上尾看護専門学校、社会福祉協議会等が初期メンバーとしてまちづくり拠点の運営について、毎月定期的に会議を実施することとなった。看護専門学校では、既に実施している見守り相談の場所としてサテライトラボを活用することとなった。

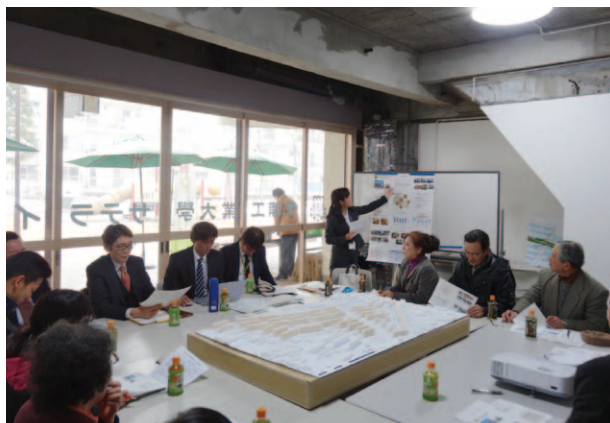
今後は、健康増進、介護予防、地域活力向上、各世代交流などの活動や実証実験を各団体と連携して実施していく。

### 学生プロジェクトとの連携

サテライトラボ上尾開設前に、今年度から学生の自主プロジェクトとして、空き家をURより安価で借り受けて、自治会活動等の支援としてお祭りや各種イベントの支援を行なうに自主プロジェクトが先行実施されていた。学生の入居とコミュニティ活動支援が中心であったが、今後は研究・教育機能のサテライトラボでの活動展開が可能である。また、理工学系ラボは夜間の研究活動もあり、防犯効果や賑わい効果も期待される。

## さいたま市の市民活動団体からの声

さいたま市の市民活動団体に対象に実施した大学との協働に関するアンケート調査の結果については、今後、大学のウェブサイトなどで公開する予定である。ここでは、アンケート票の自由回答欄の記載内容の一部を紹介したい。



看護専門学校による地域連携の提案

「本来、理工学部などまるで縁のないものと考えておりましたが、貴大学が街づくりに目をかけ、なおかつさいたま市内の大宮キャンパスで展開されていることを嬉しく思います」

「より現場に近いところで実践を通して学ぶところは重要だと思います。しかし、教員、学生ともじっくり学ぶ機会をうばう可能性もあり、なんでもNPO、現場とのリンク、協働ということで進めていくのも不安です。バランスよく取り組めることを願います」

「市民活動は仕事の合間に行っているもので、研究にあてる時間がない。活動中での気付きやアイデアを実証したり、具体化することができないまま、もどかしい思いでいる。しかし、専門家や行政が気付かない点を市民活動家はたくさん持っているので、研究ができる大学と協働できたら社会に貢献できるのではないかと考えている」

「街づくりプロジェクトに関心がある。高齢社会になることから互助や地域連携が必要になる。これは単独では進められない。高齢社会になるためにロボットが応用できると良い」

「今後、地域の課題解決に取り組むにあたって様々な団体との連携が必要だと認識しています。また、連携にあたり大学と具体的にどんな事ができるかイメージができていないことも課題だと感じています」

「大学が地域に密着した活動をしていくことは重要なことと思います。大学側と地域の団体等とマッチングするための方策を追求すべきです」



高齢者支援活動「押し花教室」としての活用